

連載
2

認知症、今、 この時の家族支援



松本診療所ものわすれクリニック 院長 松本一生
大阪市立大学大学院生活科学研究科 客員教授

今回は日常の認知症ケアで良く出会うことな
に本人と家族の利害が対立するかのように見える
ことがある病名告知と薬について考えてみましょ
う。

病名の告知は本人を悪くするの？

認知症に限らずどのような病気であっても自
分の心身の状況を知り、どう対応するかを決め
ること（自己決定）は、病気と向き合う際の基
本です。「病気なのにそのことをかくして真実
を伝えないのは、その人に対する人権侵害であ
る」といった考えもあります。しかし「自分が
認知症になった場合は、家族に迷惑をかけない
ためにしっかりと知らせて欲しい。逆に家族が
認知症になった場合には、本人の気持ちを考え
て病名は伝えたくない」と考える人も少なくあ
りません。ここでも本人と家族の思いが異なる
ようにみえる課題かもしれません。

私の診療所では数年前から初診で受診する人
ほぼ全ての場合に「病気がわかった場合には告
知を希望しますか」とはじめに聞く事にしてい
ます。でもそのような方法をとる前には何度も
苦い経験をしました。

かなり以前のデータですが、2004年から2005
年にかけて受診した人の中で、任意の11人のカ
ルテをひもといてみると、認知症の告知を受け
た後に状態が安定した人が7人、逆に不安定に
なった人が4人いました。悪化した4人には共
通点がありました。家族が不安のあまり本人が
病名告知を希望していないにもかかわらず、本
人が希望しているように言ったために、こちら
も病名を伝えてしまったのです。安定した7人

はひとり暮らしや、家族のことを考えて本心か
ら告知を希望していた人でした。それ以来、私
は受診する人の本心から告知を希望している場
合には告知を、そうでない可能性がある場合に
はしっかりと確かめてから伝えるようにしてい
ます。ここにも認知症の人のやさしさが伝わっ
てきます。全ての人ではないかもしれませんが、
他者のことを思って辛い病気とも向き合うこと
ができる人もいるのですね。

薬は毒なの「クスリ」なの？

薬は病気を改善するためのもの。量を間違え
ると効きすぎる場合や害になる場合もあること
は誰でも知っているはずですが、でも認知症や精
神領域では薬による治療への抵抗がある場合も
少なくありません。「気力で治す」といった過
ぎた精神論はともかく、この領域ではまだ薬に
よる根本的な治療が確立していないため、それ
以外の療法やケアも組み合わせた管理が大切だ
と、普段から言われているからかもしれません。
でも薬の力も最大限に活用しましょう。

その際、注意が必要なのが「認知症の進行を
押さえる薬」と「行動・心理症状（周辺症状）
を押さえる薬」に対する理解です。認知症の進
行を押さえる薬と聞くと、誰もが少しでも早く、
少しでもたくさん使えば認知症を押さえ込める
ものと考えてしまいますが、実はそうではあり
ません。

2年前にこれまでのアリセプトに加えてレミ
ニール、メモリー、イクセロン、リバスタッチ（い
ずれも商品名）が発売されたとき、介護家族の
多くの人は思いました。「一刻も早く薬を使っ

て認知症をくい止めたい」と。私も医療者として、その期待に応えたいと思いました。しかし薬はすべての人に同じように効くとは限りません。世間では評価されている組み合わせや用量を使って、一部では興奮状態になってしまった人もいました。適切な選択によってこれらの薬の使い分けができるのです。

一方で、安易な安定剤の使用は認知症の人の突然死につながるために、できれば使わない方がよい薬もあります。しかしあまりにも興奮や混乱が続く時には、注意しながらごく少量の安定剤を服用することで、認知症の人の脳や心臓にかかる負担を軽くして、認知症自体の悪化を防ぐ場合もあります。

薬は共同作業で効果

これらのことから、私は精神科医になってからの22年間、薬に対して次のように考えてきました。すなわち、治療の最初に薬があるのではなく、認知症の人とその人を思う家族や介護職の人から十分に情報を得た後に、治療者として必要であると判断したら、私は最小限の安定剤を使うことを躊躇しないでしょう。でも、その処方をもう一度見直したときに、「今こうして処方しようとしている薬を私は家族にも同じように出すだろうか」と考えながら処方する自分がいます。そのような考え方では医師として客観的な処方などできず、効果的な治療を目指すことなどできないかもしれません。でも、渾身の思いを込めて家族が薬を求めている姿が見えます。一方では副作用におびえながら処方を求めてくることも。

その際、本人+家族+介護職+医療がお互いに協力し情報を活かしながら処方することができれば、祈りにも似た共同作業が薬自体の効果を後押ししてくれるのでしょう。（つづく）

認知症医療・ケアの充実のために 世界各国が意見交換

第28回ADI国際会議 in 台北
4月18日～19日



会議では各国の認知症ケア・医療等について意見交換がされた

今回の会議出席には、大きく2つの役目がありました。国際アルツハイマー病協会（ADI）に加盟している「家族の会」の代表団として、主に3つの会議と2つのレセプションへ出席すること。もう一つは、勝田登志子副代表理事率いる全国本人交流会で作られた絵手紙の展示と、「家族の会」の活動紹介、認知症を抱えても人生を楽しめるぞという発表、台湾の認知症のご本人とご家族との国際的日本人つどいを開催することです。

開会の前の午前中に、アジア太平洋会議と総会が朝7時から延々と12時までありました。ADI加盟にマカオ、チュニジア、サウジアラビアが希望し、承認されました。アジア太平洋地区は参加国も多く、今年度からオーストラリア、インド、中国にも近い、シンガポールに事務局を設置することになりました。

各国で、認知症の医療・ケアが異なり、認知症に対して理解の乏しい国もあるようです。様々な国にADIが働きかけて、もっとすばらしい生活環境を、食事、生活、運動、認知症ケアがあるよと、研究し、教育方法を普及させようと意見交換しました。日本の認知症ケアはADIに注目されていました。

「家族の会」の紹介ポスターは、富山県支部の方々のおかげもあり、絵手紙あり折り紙あり、大盛況でした。認知症のご本人の発表も大絶賛。宮城県の子嶋浩さんの胸に響く歌声が会場にこだましました。皆、一緒になって歌を歌う姿に台湾の家族の会の方も感激！！です。

最終日の朝7時半から、同じオレンジのTシャツを着てメモリーウォーク。なんと、馬英九中華民国総統と、

一緒に行動です。4,000人のオレンジのシャツを着た人々の山。とっても元気になりました。

（国際交流専門委員
片山禎夫）



メモリーウォークで颯爽と歩く「家族の会」参加者

会員さん からの お便り

本当は働きたい

千葉県・41歳 女

実母を介護して3年ほど経ちますが、昨年夏ごろから急に進み、要介護1から3になった。昨年春に仕事を辞め実家に通い本格的に介護をしている。でも、本当は私自身働きたいと思っています。いつまで続くのか先が見えず、気持ちが沈みます。

介護費用のために 自宅を売却

愛知県・Mさん 50歳 女

昨年11月に81歳の母はレビー小体型認知症と診断されました。弟が同居を始めましたが、もともと親子関係が良くなかったため弟が適応障害を発症し、同居が無理になったため、施設入所を検討中です。

介護費用のため、自宅の売却を考えているのですが、判断能力のまだある母の考えもいれるとなかなか実行できずに困っています。

介護離婚？

大阪府・Nさん 48歳 女

80歳の父は2年前に認知症と診断されました。父と母は二人で生活していますが、母の父に対する態度に困っております。大

変なことはわかるのですが、父が認知症とわかっていても、本気でケンカをし、父が怒り出すような言い方をどうしても改める事ができず、父が離婚を口にする現状です。

スキルアップの期待

沖縄県・Yさん 31歳 女

認知症についての講演会を聞き、誰でも「家族の会」に入れると知った。専門職の立場として、当事者やその家族が抱えている問題について直接聞ける機会があることで、一緒にどんなサービスがあるか？ また、ないために困っているならみんなで創りあげていけるような仲間の一員になりたいと思います。あと、専門職としてのスキルアップができればと期待しています。

体調を崩した母が心配

神奈川県・Hさん 48歳 女

アルコール依存症の父は5年前79歳の時、アルツハイマー型認知症と診断されました。去年の6月頃には飲酒後、たびたび母に暴力をふるうようになり、コールセンターに相談しました。「家族の会」の定例会を紹介され参加し、その後、地域包括支援センター、区役所でアルコール依存の専門医を紹介され受診しました。

抗酒剤、安定剤を服用し、暴力はなくなり落ち着きましたが、今度は母が体調を崩し、何とか家事は出来ても横になることが増えました。父は1月頃には「食事をしていない」と夜中に母を起こすようになりました。夜中、テーブルに食事が用意してあっても母を起こし、一緒に食卓につかないと機嫌が悪くなります。母の体調が悪く、不安になると「役立たず！ 酒でも飲んでいいのか！」と起きるまで大声で言い続けます。それでも起きないと夜中でも近所のコ

ンビニへ行きお酒を買って飲んでいました。依存症の薬の服用で、今までは「(お酒が)まずくて飲めない」という効果がありましたが、先週からは牛乳やジュースにまぜて飲み始めました。飲むと豹変し、母への暴力が再度始まりました。二人だけの時間を少なくするためケアマネさんと話し合い、母の付き添いのもとでデイサービスを開始しようと、何とか前に進めそうと思っていた矢先のことでした。

今は、実家近くの職場に変わり、毎日帰りに寄って母を助けています。母も病弱で要支援1と認定され、ヘルパーさんを依頼したのですが「まだ大丈夫」と自分でケアマネさんに断ってしまいました。

今後の対応、父の心理状態へのアドバイスがほしいです。

長い介護生活で末期を迎え、随分本等で勉強をしたつもりですが、最近戸惑いと不安を感じております。

今後は、経験者の方々や専門家の方にアドバイスを頂き、1つ1つの病状を解決、納得しながらの、慎重な介護が必要だと考えました。より長く、母とのアルツハイマー生活を送りたいと願っております。

怒りっぽい自分がいます

福岡県・Sさん 63歳 女

2年前に若年性アルツハイマー型認知症と診断された主人を介護しています。主人への接し方について、皆さんの話を聞き、自分自身の気持ちを落ち着かせることができ楽になっています。

でも、やさしい心のない、怒りっぽい自分がいます。大声を出したり、叫ぶ時があるこの頃です。

施設に馴染めない母

広島県・Oさん 63歳 女

87歳の母は昨年アルツハイマー型認知症と診断されました。

母は20年以上もの長い間一人暮らしをして、気丈に生活していましたが、高齢になり物忘れがひどく、日常生活が難しくなりましたので、去年9月から老健施設に入所しました。

その施設になかなか馴染めなくて、半年経った今も泣きわめき、日に何度も電話をかけて「死にたい、連れて帰ってー」と言います。どうしてやったら良いのか悩んでいます。

「家族の会」に入会します

神奈川県・74歳 女

77歳の夫を介護しています。とにかく、どのように対応したら良いのかを教えてくださいたく…。私の方がうつ状態で、このままだと…。

分からない、分からない、どう向き合えばいいのか分からない!!疲れて考えもまとまりません。しっかりしなければと頭では分かるのですが…。

より長く、母と一緒に

東京都・Hさん 59歳 女

母は平成15年にアルツハイマー型認知症と診断され、現在要介護5です。

お待ちしております！

■お便りで紹介した人へのお返事を「家族の会」編集委員会宛にお寄せください。

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル京都社会福祉会館内
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheim.or.jp

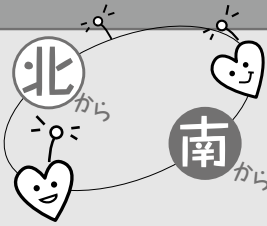
118 支部だよりにみる

介護体験

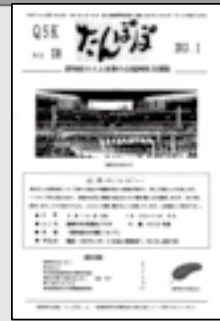
今回は
福岡県

「家族の会」と共に

福岡県支部 会員M.K



福岡県支部版
(2013年1月号)



●若年性アルツハイマー病という暗雲

夫は現在65歳、要介護4に認定されている。60歳の時に「若年性アルツハイマー病」と診断された。研究所に勤務する科学者で、温厚な人柄であったが、50代半ばから様子が変わった。彼の不可解な言動に翻弄され、得体の知れない不安に付きまといわれ、暗雲に覆われ出口を見いだせない状態が続いていた。思い返すと、病氣と判明するまでのこの月日が、ある意味では、心理的、精神的に最も苦しい時期だったのかもしれない。

「彼を守るのは私しかいない」という状況が、それまでの諸々の関係性、しがらみ、躊躇を取っ払った。地域社会のシステムの中で支えていただく他に道はないと覚悟した。

少しでも安心して介護ができるよう、まず、住環境を整え、「家族の会」に入会し、介護サービスの申請をした。やっと体制が整い、どのルートを通るのか、どこまで続くのかかわからない介護列車に飛び乗った。

●進行する症状

病名を告げられたときには、驚くほど進行していた。以来、アリセプトの服用を怠らなかったが、最悪な事に、かなり早い時期（63歳頃）に排泄後の処置ができなくなった。介助を完全に否定し、私の目を盗んでトイレに行く日々が続いた。

私は消毒薬アレルギーになるほど、掃除を繰り返した。トイレの神様が居るのなら、きっと絶世の美女にしてくれたに違いないと、ある日鏡をのぞいた。そこには眉間に皺を寄せ、疲れ果てた婆様だけが映っていた。「我が家にはトイレの神様すら居ないのだ!」と愕然とした。数ヵ月を経て、排泄介助を受け入れるようになった。夫は「失

行」が著しく、今では歩行以外は、すべてに介助が必要とされる。

●服薬のストレス

薬に対する感受性がとても強いため、様々な副作用に苦しみ、かなり長期間、心身に大きな負荷をかける結果となった。介護者である私自身もストレスに押し潰されそうだった。

数種の薬を比較することによって、それまで周辺症状と考えられていたものが、実は薬の副作用に起因する可能性が高いこともわかった。

●施設の利用

家族にとって、介護施設（通所・ショートステイ利用）ほど頼りになるものはない。スタッフの皆様には感謝の言葉しかないが、ごく稀に家族のために対立的構図を描かなければならないこともある。これは想像以上に心身が疲弊する。夫を支えて生きていくだけで精一杯で、更なる困難に対処できる余力は無いに等しいのだから。待ち受ける未来は辛く、厳しいものと分かっているが、引き下がるわけにはいかない。「家族」だから…。でも片手では、何度も白旗を揚げています。

●「家族の会」

「若年性認知症」は「家族の会」の皆様との交流が無ければ、とても太刀打ちできる相手ではない。

私はこれまで、「家族の会」の世話人や会員の皆様に、随分お世話になった。これからも多くの好意や助言をいただく事になるだろう。類似の経験をし、苦悩し、そこで生まれる共感を通して得られる言動ほど頼もしいものは無いのだから。

「負担を増やし、 給付を減らす」 流れにもの申す！

「負担ばかりで、給付を減らす」
ことは許されない

会報編集委員長 鎌田松代

1. 給付の重点化・効率化

厚労省老健局長は、2月に開催された全国厚労省関係部局長会議で介護保険の見直しについて「給付の重点化・効率化は避けられない。介護保険料をある程度の水準に抑えないと制度がもたない」と話しています。厚労省は2014年の通常国会で介護保険法改正案を提出する方針で、15年4月の施行と介護報酬改定を目指していると報道されています。「給付の重点化・効率化」としては「予防給付の内容の見直し」「在宅介護への移行」などが挙げられています。

2. オレンジプランでは早期発見・早期対応が柱

昨年に出された認知症施策5か年計画（オレンジプラン）は認知症の早期発見と対応を柱にしています。13年度からは、認知症の人と家族への支援を強める計画が本格的に始まります。

3. 早期発見されても

介護保険制度のサービスはない

国は矛盾した施策をしようとしています。認知症の人を早期に発見・診断し、対応していくとオレンジプランでは謳いながら、早期に発見された認知症の人に多い要支援から要介護2までの人を介護保険制度の対象から外す、利用料を2割にするなどの給付削減、負担増が審議され始めています。

『軽度者（要支援から要介護2まで）』を対象としている介護予防・日常生活支援総合事業は保険者である市町村が決定し、利用者には選択の余地がありません。内容も配食と見守りで、デイサービスやヘルパーはメニューにはありません。このようなことが進んでいくと、診断は受けたが使えるサービスは少なく、選択の余地が狭められたものになってきます。これでは早期発見難民となり

そうですし、早期発見でいいことは何もないことになってしまいます。

4. 要介護2の姑は介護保険サービスの利用で、 笑顔の生活を取り戻す

88歳の姑は要介護2です。アルツハイマー病の疑いと診断を受けました、記憶がすっぽりと抜けてしまうことに本人は苦しんでいます。ここ数年徐々に、もの忘れが目立ち始めていましたが、骨折での入院をきっかけに一気に病状が進行し、家事や金銭管理などが出来なくなり、介護サービスの利用量を増やすために、これまでの要支援1から区分変更しました。骨折から2ヵ月が経過し、ヘルパーやデイサービス、理学療法士の助けを受けて徐々に元気を取り戻してきました。

私達子ども家族は、仕事や親との関係性も、介護保険サービスを利用することで継続して続けられ、介護負担で疲労困憊することはありませんでした。姑はデイでのリハビリや人との交流で笑顔も出てきました。ヘルパーの生活援助で快適な居住空間で暮らすことができています。このサービスが受けられなくなる恐れがあります。

介護保険制度は、民間の保険ではなく社会福祉の一環のしくみであるはずですが。私達はこれまでも、これからも税金と保険料を払い、互いに助け合っていけることがありがたく払い続けます。しかし、今、負担とサービスのバランスが崩れようとしています。

福祉や医療、研究分野など各界の方、介護家族に「負担と給付について」の意見や考えを発表してもらい、負担増ばかりで給付削減の風を押返すことをめざします。

いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

豪雪にも負けず…

秋田県
支部

1月20日と2月17日のつどいの日は両日とも豪雪に見舞われましたが、足下の悪い中でも開かれました。

2年前に入会して以来ずっと参加している武石さんは、「いつも何かほっとし、力をもらったような不思議な感覚になります」と、つどいの感想を述べています。

第91号を迎える支部会報「ひまわり」の題字が3月号から素敵な文字になりました。力強く躍動感がある文字です。会員の増田さんのデザインによるものだそうです。

第91号を迎える支部会報「ひまわり」の題字が3月号から素敵な文字になりました。力強く躍動感がある文字です。会員の増田さんのデザインによるものだそうです。

できることはたくさんある

青森県
支部

結成4年目を経過した支部では、6地域で2ヵ月ごとにつどいを開催、その他に男性（青森と弘前）と若年（弘前）のつどいも開かれました。この支部活動の力になったのは、昨年のアルツハイマーデーのポスターで全国に知られた前田栄治、美保子夫妻です。支部の講演会でも思いを語り、二人の前向きで明るい姿が支部会員にも勇気と感動を与えています。

栄治さんは、「もの忘れはするができることはたくさんある。できることに目を向けて!」と訴えています。

栄治さんは、「もの忘れはするができることはたくさんある。できることに目を向けて!」と訴えています。

5ヵ所で家族交流会立ち上げ支援

熊本県
支部

2011年度から熊本県の「認知症コールセンター機能強化事業」（コールセンター事業と県下での家族会設立支援事業）の委託を受けています。12年度は市町村との打合せを重ね、5ヵ所で家族交流会を立ち上げることができました。氷川町、高森町、あさぎり町、美里町、相良村の5町村です。支部世話人1～2名が立ち上げ支援に参加。

実施主体は市町村、地域包括、社会福祉協議会など様々ですが、いずれの地域も継続して開催される予定です。美里町では、「家族の会」早川一光顧問の講演会も開かれました。

実施主体は市町村、地域包括、社会福祉協議会など様々ですが、いずれの地域も継続して開催される予定です。美里町では、「家族の会」早川一光顧問の講演会も開かれました。

世話人、募集中!

岐阜県
支部

社会福祉協議会主催の2ヵ所を含めると4月中に県内で7ヵ所でつどいを開催する同支部。29日には総会です。総会を前にして、代表の白木登美子さんは「会員の継続をお願いします」と呼びかけています。合わせて、「世話人!募集中!」とも。現在14名の世話人がいますが、「イマイチ文明に乗り遅れ(?)感」があると言います。それでも、パソコンでなくてもよい、会計能力でなくてもよい、明るいだけでも結構です、何かお手伝いください、と呼びかけています。

たくさんの方の立候補があるといいですね。

たくさんの方の立候補があるといいですね。

国際交流委員会発 台湾の巻

「ケアでつながる地球家族」

■メモリーウォークで世界中の人との触れ合い

今回のADI国際会議in台北でメモリーウォークが最終日にあるということで参加しました。内容がよくわからないまま、登録が必要ということでとりあえず登録。するとTシャツのサイズを聞かれ、最終日に着て来るようにというご指示。

当日、オレンジリングと同じオレンジ色のTシャツを着て集合場所に行ってみると、会議場からすぐ近くの台北市役所前の公園があふれんばかりの人人人です。オレンジ色の4,000人がぞろぞろと台北市の中心部を約1キロのウォーク

です。

世界中の国名を書いたブラカードを持って、メモリーウォークの先頭は馬英九総統でした。馬総統とADIのジャコブ・ロイ議長とともに皆で太極拳の準備体操をしてから出発しました。

日本からも大勢参加、たぶん30人くらい参加したようです。皆、楽しく世界中の人と触れ合いながらウォークを楽しみました。

2022年は日本の当番年だそうです。その時にはぜひとも我が国の総理大臣に参加してもらわなくては、と強く思いました。



お揃いのTシャツで記念撮影

今月の本人 ADI国際会議(台湾)・本人交流会参加の皆さん

ADI国際会議の開催期間中の4月19日に、台北国際会議場本会議場の別室で本人交流会が開催されました。昨年3月のロンドン国際会議に続き、2度目の交流会が実現しました。

日本からの本人参加者は4名、台湾からは2名で、終始笑顔の絶えな

い会でした。歌に始まり歌に終わるという日本のつどいにいるような雰囲気でした。

自己紹介と、日常生活で大切にしていること、これからやってみたいことをそれぞれ話されました。その一部を紹介します。

(新潟県支部 原等子)



大切だと思うことは、くよくよせずに友達や家族と過ごすこと

●日常生活で大切にしていること

ツェンさん (台湾・女性)：自分は患者ですが、くじけず、患者ということを絶対に恥づかしいと思っていません。医師に感謝しており、皆様ともこれから一緒に頑張っていきたいと思っています。一番大切だと思うことは自分がもっと強くなって、くよくよせずに友達や家族と過ごすことです。

寺嶋浩さん：大切にしていることはたくさんありますが、意外とそんなに言う事でもないかなと思います。歌うということでもいいですね。

●これからやってみたいこと

Mさん (日本・男性)：10年以内には根本治療薬ができることを期待して、体力つけて、頑張ら



▲左から山本夫妻、Kさん、ツェンさん親子。

ないであきらめないで皆さんやっていきましょう。

山本きみ子さん：4月から認知症カフェが始まったので夫婦で仕事をさせてもらっています。できるだけ協力して仲良くやっていきたいと思います。

Kさん (台湾・男性)：世界の大陸をめぐることにそれがあと1ヵ所で達成します。それが南アメリカ。来年のプエルトリコ(国際会議開催国)です。

竹内裕さん：一昨年、北半球を船旅でパナマ運河とスエズ運河を3ヵ月で回ってきたのですが、今度は南半球を回りたいと。それが夢です。今日は皆さんと笑顔で楽しい会をありがとうございました。この笑顔と楽しい歌声がこれからもずっと続きますように祈っております。



▲本人、サポーター、通訳総勢21名が参加。

▼お互い笑顔がこぼれる。山本さん(右)とツェンさん(左)。



●本人参加者

日本：竹内裕さん(63歳)、寺嶋浩さん(69歳)、山本きみ子さん(63歳)、Mさん(65歳)

台湾：ツェンさん(60歳・女性)、Kさん(57歳・男性)

情報コーナー 交流の場

宮城●6月6日(木)・20日(木) 午前10:30～午後3:00/翼(本人・若年)のつどい→泉社会福祉センター

埼玉●6月15日(土) 午前11:00～午後2:30/若年のつどい・越谷→越谷市中央市民会館

6月26日(水) 午前11:00～午後1:00/若年のつどい・大宮→地域包括支援センター諏訪の苑

神奈川●6月22日(土) 午前11:00～午後

3:00/若年期よこすかのつどい→神奈川県立保健福祉大学

富山●6月8日(土) 午後1:00～3:30/てるぼうずの会→サンフォルテ2階

愛知●6月8日(土) 午後1:30～4:00/元気かい→東海市しあわせ村

滋賀●6月12日(水) 午前10:00～午後2:00/ピアカウンセリング→県立成人病センター職員会館

京都●6月16日(日) 午後1:30～3:30/若年性認知症本人・家族のつどい→京都社会福祉会館

鳥取●6月23日(日) 午前11:00～午後3:00/にっこりの会→笑い庵カフェ&マル

シェ(米子市)

広島●6月1日(土) 午前11:00～午後3:30/陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター

6月8日(土) 午前11:00～午後3:30/陽溜まりの会広島→広島市中区地域福祉センター

6月22日(土) 午前11:00～午後3:30/陽溜まりの会西部→廿日市市総合健康福祉センター

熊本●6月9日(日) 午後1:30～4:30/若年期認知症のつどい→くまもと県民交流館パレア

詳細は各支部まで